

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果について

東大阪市教育委員会 学校教育部 学校教育推進室

文部科学省が毎年度行っている全国学力・学習状況調査について、東大阪市立小中学校・義務教育学校の結果をお伝えします。(調査目的等の概要はP9に記載)

## ◆今年度の結果概要

### <教科>

小学6年生/義務教育学校6年生(国語・算数)、中学3年生/義務教育学校9年生(国語・数学・英語)を対象に調査が行われました。本市では、いずれの教科も全国平均にはとどきませんでした。国語については小・中・義務教育学校ともに、わずかに改善がみられました。(表①)

また、すべての教科において、さまざまな情報(図や表等)から必要な情報を読み取る力、得た情報を多面的・多角的に考察する力、考えなどをまとめて表現する力に課題が見られました。

なお、全国平均を上回る児童生徒の割合は、表②のとおりです。

表①<平均正答率 ※( )内の値は平均正答数>

表②<全国平均正答数を上回る児童生徒の割合>

教科		平均正答率	
		東大阪市	全国
小学校	国語・6年	63% (8.9)	67.2% (9.4)
	算数・6年	58% (9.3)	62.5% (10.0)
中学校	国語・3年	64% (9.6)	69.8% (10.5)
	数学・3年	44% (6.6)	51.0% (7.6)
	英語・3年	39% (6.6)	45.6% (7.7)

教科		割合
小学校	国語・6年	47.4%
	算数・6年	51.5%
中学校	国語・3年	47.0%
	数学・3年	39.0%
	英語・3年	35.6%

### <児童生徒質問紙>

小中・義務教育学校ともに、「自分にはよいところがある」と肯定的に回答している割合は、昨年度より増加しています。また、ICT機器(PC・タブレット等)の授業での使用頻度は全国に比べて高く、活用が進んでいます。

一方、家庭学習の時間が比較的少ない傾向がみられ、家庭での時間の使い方に課題がみられました。

### <今後の取組み>

探究心(知的好奇心・ワクワク感等)を持ち続けるための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、一人一台端末やAIドリルを効果的に活用しながら、教師主導の授業から、子ども主体の授業への転換を引き続き推進していきます。

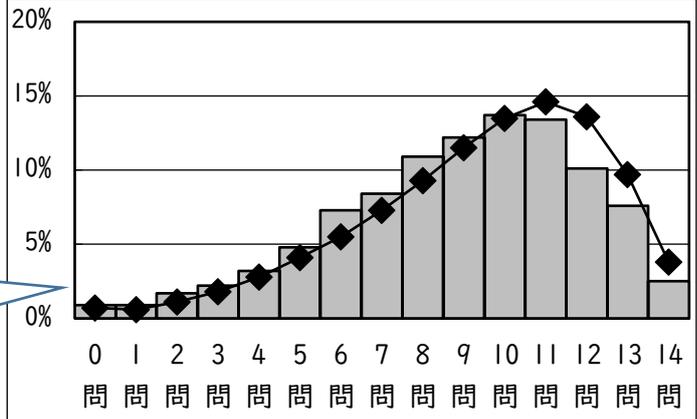
また、すべての子どもたちが誰一人取り残されない「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら、学びの基盤となる言語能力や情報活用能力等の向上をめざしていきます。

# 小学校国語

	平均正答数	平均正答率(%)
東大阪市	8.9/14	63
全国(公立)	9.4/14	67.2



東大阪市  
 全国(公立)



分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)		
			東大阪市	全国(公立)	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	68.2	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	59.5	63.4
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	70.0	72.6
		B 書くこと	1	21.7	26.7
	C 読むこと	3	65.6	71.2	
評価の観点	知識・技能	7	65.7	68.9	
	思考・判断・表現	7	61.2	65.5	
問題形式	選択式	9	70.4	73.6	
	短答式	2	58.0	62.7	
	記述式	3	46.2	51.1	

## 課題がある点

・複数の資料を読んで理解したことを関連付けながら、自分の考えをまとめること

大問2四 平均正答率 東大阪市 49.0% 全国 56.4%

### <正答に必要な条件>

以下の2点について書かれている。

- ① 資料を読んで、運動と食事の両方について分かったことを書く。
- ② 分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを書く。

### <多かった誤答>

必要な条件①では、運動と食事の2つのことについて書くことが求められているのに対し、食事のことについてしか書かれていない。

### <誤答分析>

文章や図表など複数の情報から必要な情報を取り出し、関連づけながら自分の考えをまとめることに課題があると考えられる。

## 指導改善のポイント

複数の資料から分かったことを整理したり、分かったことの中から既有的知識や体験などに結び付くものを考えたりしながら自分の考えをまとめるようにする力の育成が必要である。

### <大問2四(抜粋)>

【資料3】 相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ

#### 栄養素の働き

規則正しく食事をとることにより、脳が活発に働いたり、元気に運動したりすることができます。ただし、同じものや好きなものばかり食べていると、栄養がたよってしまい、つかれやすくなったりいららしたりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のように、主に三つのグループに分けることができます。

米やパンなどは、主にエネルギーのもとになります。

肉や卵などは、主に体をつくるもとになります。

筋肉がついたり、けがが治りやすくなったりします。

野菜や果物などは、主に体の調子を整えるもとになり、病気にかかりにくくなります。

〈栄養素の主な働きと食品の例〉

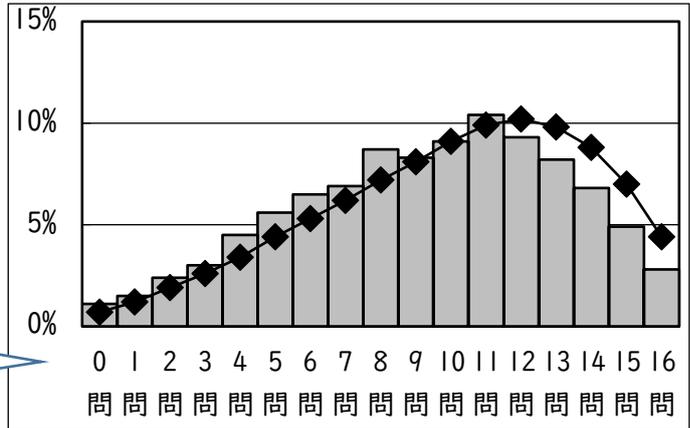
主にエネルギーのもとになる

主に体をつくるもとになる

主に体の調子を整えるもとになる

# 小学校算数

	平均正答数	平均正答率(%)
東大阪市	9.3/16	58
全国(公立)	10.0/16	62.5



分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)	
			東大阪市	全国(公立)
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	63.9	67.3
	B 図形	4	43.2	48.2
	C 変化と関係	4	67.1	70.9
	D データの活用	3	59.2	65.5
評価の観点	知識・技能	9	63.3	67.2
	思考・判断・表現	7	51.5	56.5
問題形式	選択式	5	51.8	57.7
	短答式	7	72.2	74.7
	記述式	4	41.4	47.3

## 課題がある点

・高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大小を判断するのに必要な情報を見だし、その理由を記述すること

大問2(4) 平均正答率 東大阪市 13.4% 全国 20.8%

### <正答に必要な条件>

3を選び、以下の2点について書かれている。

- ① 三角形と三角形の底辺の長さが等しいことを表す言葉や数
- ② 三角形と三角形の高さが等しいことを表す言葉

### <多かった誤答>

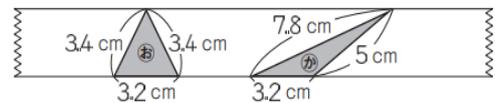
4を選び、高さについて具体的な長さが示されていないことを書いている。

### <誤答分析>

高さについて具体的な長さが示されていないことを記述し、三角形と三角形の面積はこのままでは比べることができないと判断している。このことから、三角形の面積を求めるためには、必要な底辺と高さの関係に着目することに課題があると考えられる。

### <大問2(4)>

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

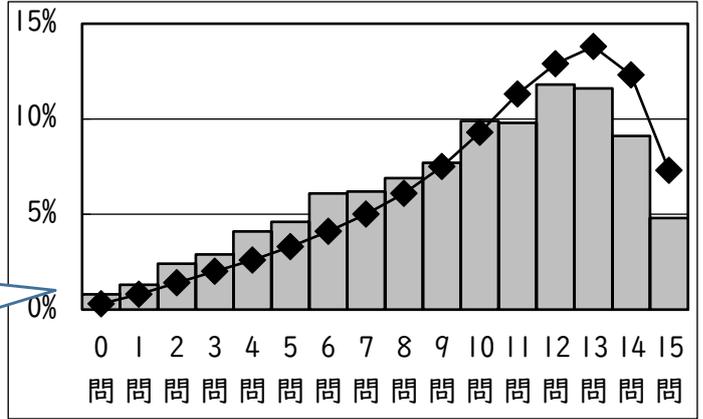
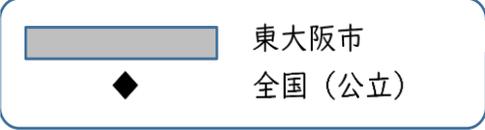
- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

## 指導改善のポイント

テープの上の直線と下の直線にはさまれた平行四辺形や三角形をかき、テープの幅や平行線の性質を活用して、それらの面積を比べる活動などを通して、具体的な高さが分からなくても平行四辺形の面積を考える場合には等積変形などによって同じ長方形になることから、底辺と高さがそれぞれ等しいときに面積が等しいことを説明できるようにすることが大切である。

# 中学校国語

	平均正答数	平均正答率(%)
東大阪市	9.6/15	64
全国(公立)	10.5/15	69.8



分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)		
			東大阪市	全国(公立)	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	63.2	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	56.6	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	69.9	74.7
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	76.2	82.2
		B 書くこと	2	57.2	63.2
		C 読むこと	4	56.2	63.7
評価の観点	知識・技能	7	64.2	69.4	
	思考・判断・表現	9	63.1	69.7	
問題形式	選択式	7	68.3	73.1	
	短答式	4	59.7	65.6	
	記述式	4	60.0	68.0	

## 課題がある点

・複数の資料を読んで理解したことを関連付けながら、自分の考えをまとめること

大問3三 平均正答率 東大阪市 52.7% 全国 61.8%

### <正答に必要な条件>

(ウ)を選び、後半のまとまりに付ける見出しを、「『判じ絵』の歴史」、「『判じ絵』の起源と広がり」のように解答している。

### <多かった誤答>

(ウ)を選んでいるが、(ウ)以降の内容に共通する要素を抽出し、見出しを考えて書くことができていない。

### <誤答分析>

接続する語句の役割については理解しているが、要点を読み取ることや、要点を表現することに課題があると考えられる。

<大問3三(抜粋)>

3. 調査結果

■「判じ絵」とは何か

「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。

(ア)ただし、【図1】のように、描かれているもの【図1】ザルと意味しているものが異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おし量って考える」が必要になる。(イ)言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものである。(ウ)また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ)そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ)さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。



## 指導改善のポイント

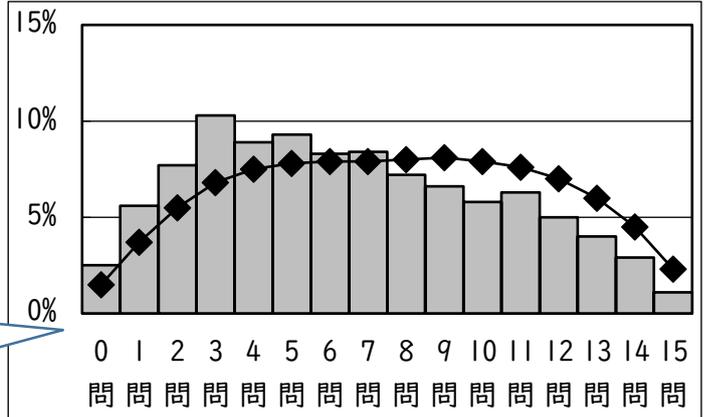
事実や調べたことを基に自分が考えたことを伝える文章を書く際に、段落相互の関係を具体と抽象の関係という観点で見直し、文章の構成や展開を検討したり、内容で分けた文章のまとまりに小見出しを付けたりすることに取り組むことや、長文を読み取る際や相手の話を聞く際に、要点を意識することが重要である。

# 中学校数学

	平均正答数	平均正答率(%)
東大阪市	6.6/15	44
全国(公立)	7.6/15	51.0



東大阪市  
 全国(公立)



分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)	
			東大阪市	全国(公立)
学習指導要領の領域	A 数と計算	5	57.4	63.0
	B 図形	3	26.6	33.2
	C 関数	4	42.9	51.2
	D データの活用	3	39.3	48.5
評価の観点	知識・技能	10	49.9	55.7
	思考・判断・表現	5	31.5	41.6
問題形式	選択式	4	40.4	45.3
	短答式	6	56.3	62.6
	記述式	5	31.5	41.6

## 課題がある点

・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

大問7(2) 平均正答率 東大阪市 20.7% 全国 33.6%

### <正答に必要な条件>

以下の(a)、(b)、(c)のいずれかと、(d)について書かれている。

- (a)1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にあること。
- (b)1991年～2005年の第1四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きく、1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第3四分位数の方が大きいこと。
- (c)1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きいこと。
- (d)2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあること。

<大問7(2)(抜粋)>

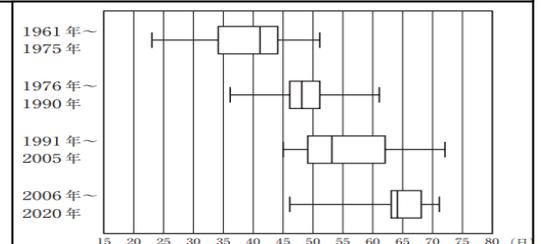
前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

### <多かった誤答>

(a)～(d)以外で、箱ひげ図から読み取れることを記述している。

### <誤答分析>

箱ひげ図を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明することに課題があると考えられる。



## 指導改善のポイント

日常生活や社会の事象を題材とした問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して分析し、データの分布の傾向を捉え、その結果を基に考察し判断するという一連の活動を充実させることが大切である。

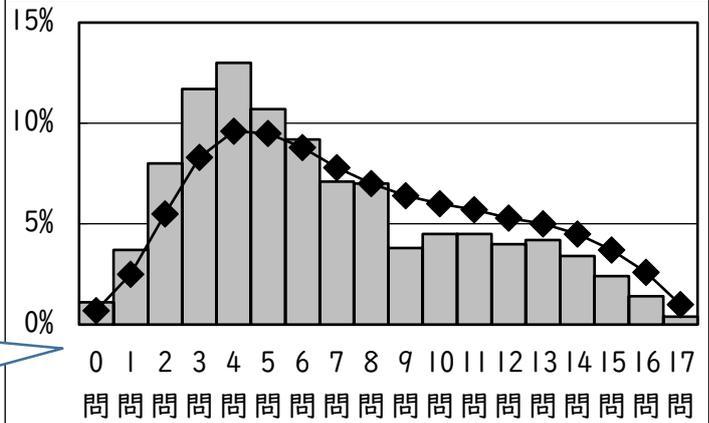
# 中学校英語

「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」について

	平均正答数	平均正答率(%)
東大阪市	6.6/17	39
全国(公立)	7.7/17	45.6



東大阪市  
 全国(公立)



分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)	
			東大阪市	全国(公立)
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	52.3	58.4
	(2) 読むこと	6	43.8	51.2
	(3) 書くこと	5	17.6	23.4
評価の観点	知識・技能	9	43.9	51.5
	思考・判断・表現	8	33.7	38.8
問題形式	選択式	12	48.0	54.8
	短答式	3	22.4	30.1
	記述式	2	10.3	13.5

## 課題がある点

・日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を(英語で)書くこと。

大問 10 平均正答率 東大阪市 5.8% 全国 7.4%

### <正答に必要な条件>

以下の3つの条件を満たしている。

- ① 学校生活(行事や部活動など)の中から1つ取り上げている。
- ② 紹介する内容を一貫性のある文章で書いている。
- ③ 25語以上の英語で書いている。

### <大問10(抜粋)>

あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを開発しています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を25語以上の英語で書きなさい。

### <多かった誤答>

条件①、②、③を満たして解答しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や、文法事項等の誤りがある。

### <誤答分析>

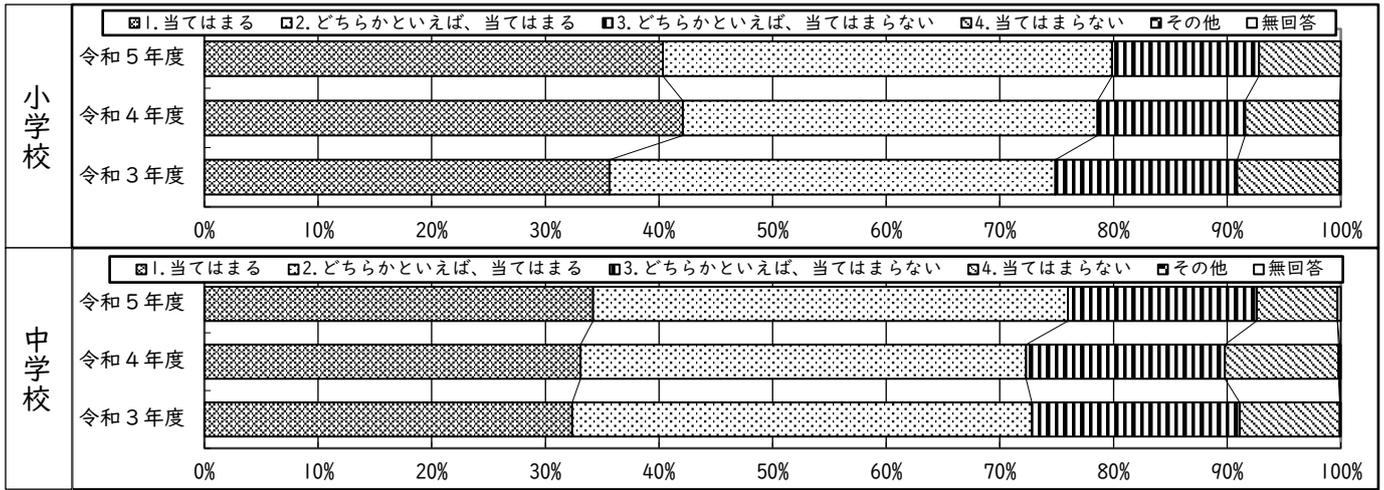
文構造の誤り、主語や動詞の脱落など、コミュニケーションに支障をきたすような誤りがあり、基本的な語や文法事項等を理解して文章を書くことに課題があると考えられる。

## 指導改善のポイント

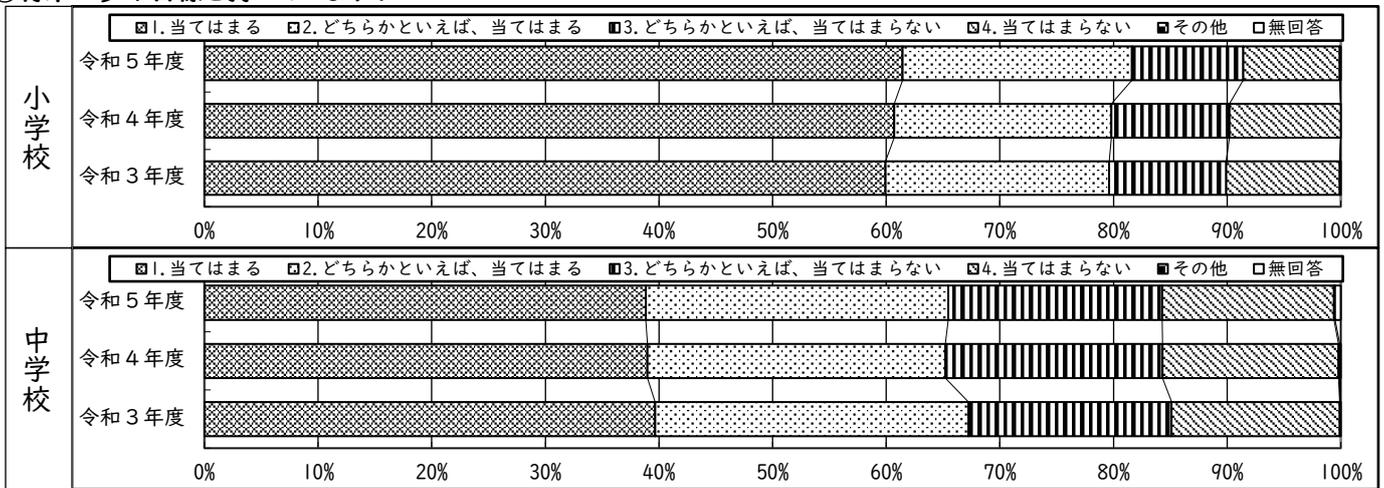
書く内容を目的に応じて選んだり、どういう構成がよいか判断したり、相手や目的によって表現を工夫したりすることが大切である。また、書き表したものをペアやグループで読み合い、言語面での気付きを共有したり、内容や構成、表現方法について質問したり、コメントを述べたりし、その内容を参考に推敲するなど、それぞれの言語活動を関連付けた段階的な指導を行うことが必要である。なお、まとまりのある文章を書くため日常的に書く活動を取り入れて、書くことへの抵抗感を減らし、全体の構成を考えて、内容を整理して書くことの活動につなげていく指導を行うことも大切である。

## 児童生徒質問紙調査 3年間の経年変化 <自己有用感に関すること>

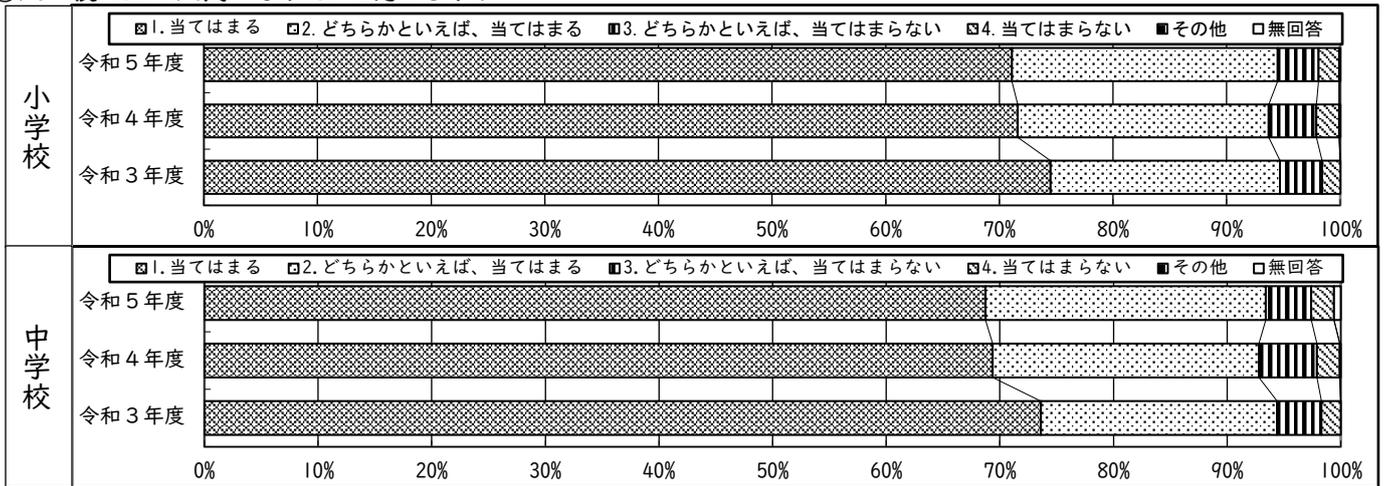
### ① 自分には、よいところがあると思いますか



### ② 将来の夢や目標を持っていますか



### ③ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

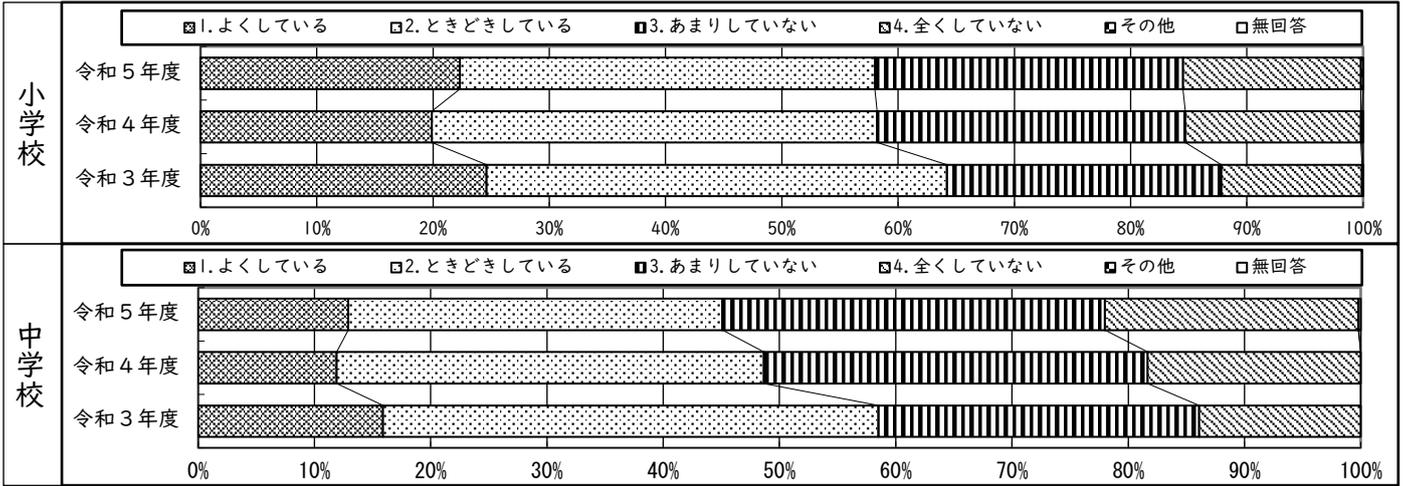


①については、小・中学校ともに令和3年度より肯定的回答率が増加している。②については、小学校では、3年間で肯定的回答率が微増しているものの反対に中学校では、微減している。③については、肯定的回答率全体で見れば、小・中学校ともに大きな変化は見られない。

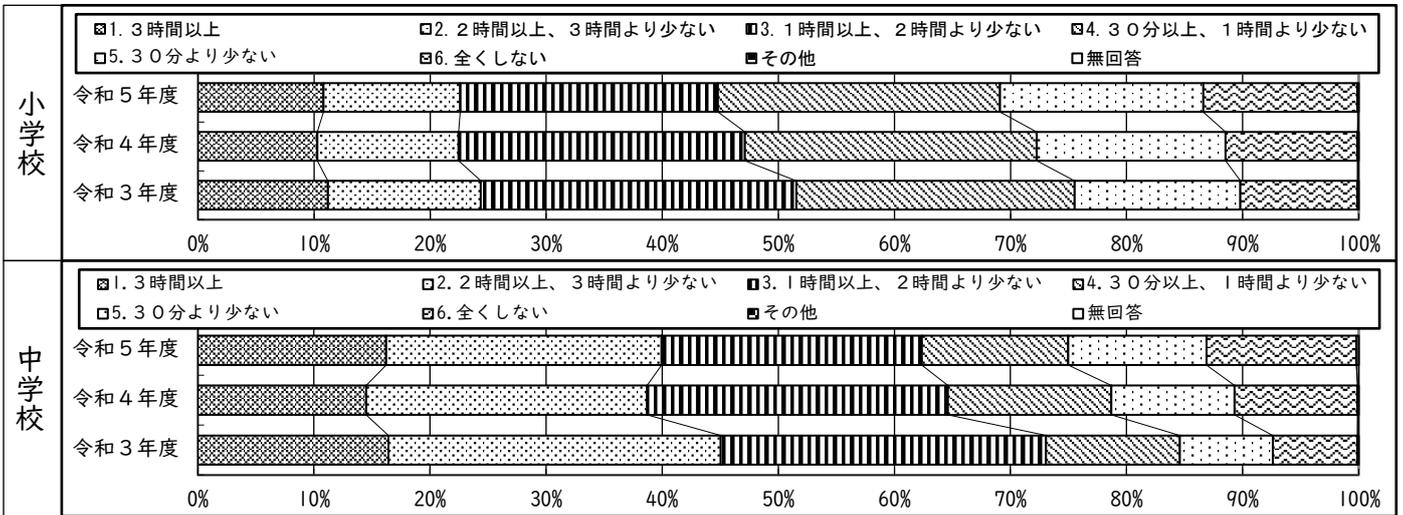
キャリア・パスポート等を活用し、将来の社会的自立・職業的自立を念頭に置きながら、子どもたちの成長や発達を促進したり、なぜ勉強なくちゃいけないのか、今の学習が将来どのように役立つのかということなどについて考えたりする日々の教育実践が大切である。

## 児童生徒質問紙調査経年変化<家庭学習習慣に関すること>

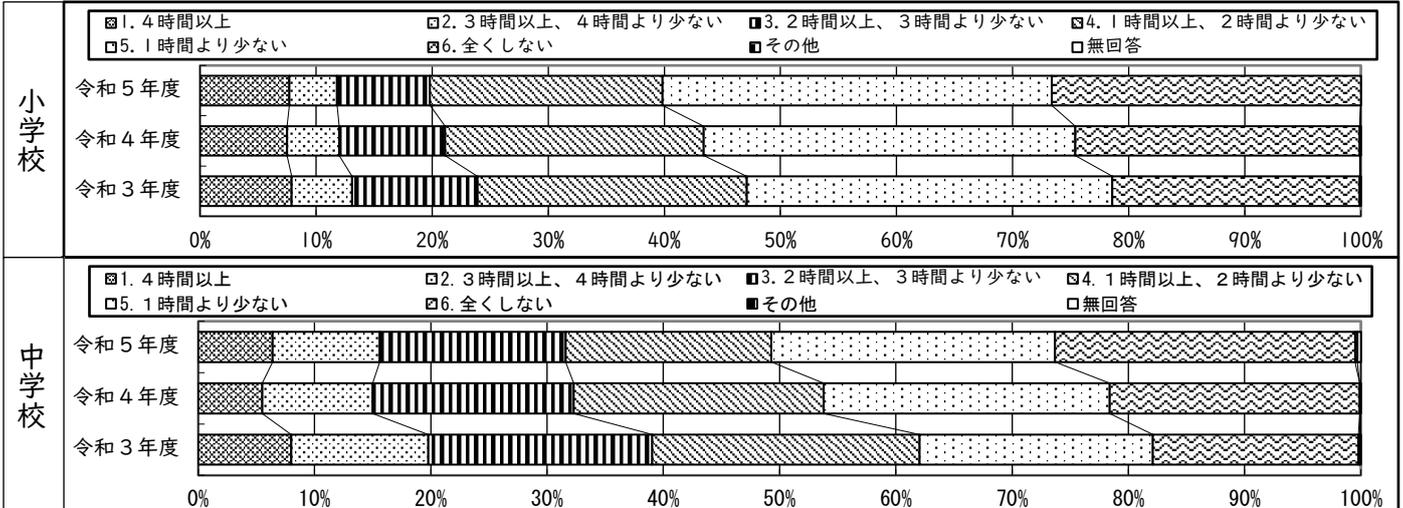
### ①家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)



### ②学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



### ③土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



令和3年度に比べ、①で「全くしていない」と回答している割合は、小学校で3%、中学校で8%増加、②で「全くしない」と回答している割合は、小学校で3%、中学校で5%増加、③で「全くしない」と回答している割合は、小学校で5%、中学校で8%増加している。すべての教育活動において、ICTも活用しながら、「探究のプロセス(①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現)」の質的向上を図り、探究心(知的好奇心・ワクワク感)を持ち続けるための「主体的・対話的で深い学び」の実現をより一層図る必要がある。

## 令和5年度全国学力・学習状況調査概要

**調査目的** 教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国の状況との関係において、児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

**調査日** 令和5年4月18日（火）

**調査対象** 小学校6年生/義務教育学校6年生、中学校3年生/義務教育学校9年生

**調査内容** 小学校：国語・算数  
中学校：国語・数学・英語  
小中共通：児童生徒質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）  
学校質問紙調査  
（指導方法に関する取組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

### 今年度調査の特徴

- 4年ぶりに中学校では「英語」の調査が実施された。
- 英語「話すこと」調査においては、タブレット端末等を活用し、文部科学省 CBT システム（MEXCBT：メクビット）を用いたオンラインの音声録音方式で実施された。
- 小学校国語では第5学年及び第6学年の学習指導要領〔知識及び技能〕の(2)情報の扱い方に関する事項「ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。」が初めて出題された。

### 調査結果の取扱いに関する配慮事項

調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど、教育上の効果や影響等に十分配慮すること。

## 関連サイト

- 令和5年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について  
<https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>
- 東大阪市学校教育基本目標・重点目標  
<https://www.city.higashiosaka.lg.jp/kosodate/0000005027.html>
- 東大阪市の学校教育  
[https://www.city.higashiosaka.lg.jp/kosodate/cmsfiles/contents/000011/11826/R5\\_gakkouyouiku.pdf](https://www.city.higashiosaka.lg.jp/kosodate/cmsfiles/contents/000011/11826/R5_gakkouyouiku.pdf)
- 東大阪市教育行政に関する大綱（改訂版）  
<https://www.city.higashiosaka.lg.jp/cmsfiles/contents/0000016/16422/taikoukaitei.pdf>

